



SHIKOKU RESEARCH INSTITUTE INC.

CORPORATE PROFILE

C O R P O R A T E P H I L O S O P H Y S Y S T E M

企業理念体系

▶企業理念 探求から創造へ 創造から新たな探求へ

▶行動指針

未来への課題を解決します
社会への貢献を大切にします
協働する関係を構築します
活力ある会社であり続けます

確かな未来へ、
“わくわく”を形に



MESSAGE	ご挨拶	03
CORPORATE PROFILE	会社概要	04
RESEARCH & BUSINESS	研究・事業内容	05
PRODUCT	主な商品	09
SEVERAL DECADES	研究開発のあゆみ	14
EMPLOYEE INTRODUCTION	社員紹介	15
KAGAWA	香川県	17
EXHIBITION・OVERSEAS BUSINESS TRIP	展示会・海外出張	18
CONTACT	問い合わせ先	18

MESSAGE

ご挨拶

四国総合研究所は、電気事業への貢献と電気事業で培った技術の提供による地域振興を目的に、1987年10月、四国電力株式会社の技術研究所を母体として分離・独立いたしました。

以降、電力・エネルギーはもとより、土木建築・地質、情報通信、エレクトロニクス、化学、バイオテクノロジーなど、幅広い分野の研究に取り組み、活動領域も四国を中心に全国、そして世界も視野に拡がりを見せております。

設立から今日に至るまで、弊社を支えていただいたお客さまや関係各位に改めて御礼申し上げます。

幅広い分野の専門家が在籍する弊社ならではの強みを生かし、技術融合を進め、きらりと光る技術で社会課題の解決に貢献してまいり所存でございますので、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

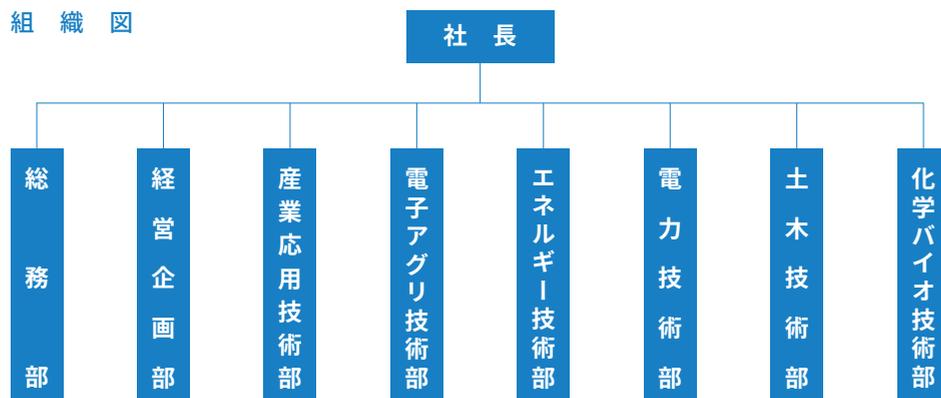
越智 浩

C O R P O R A T E P R O F I L E

会社概要

社名	株式会社四国総合研究所
設立	1987年10月1日(四国電力株式会社より分離、独立)
資本金	1億円
代表者	代表取締役社長 越智 浩
従業員	123人(2024年4月1日現在)
本社	〒761-0192 香川県高松市屋島西町2109番地8
代表電話	(087)843-8111
FAX番号	(087)887-0005
株主	四国電力株式会社
営業種目	<ul style="list-style-type: none">●電気事業に関する調査、研究、開発●土木建築・地質、情報・通信、環境、エネルギー、電気利用、バイオ分野などにおける調査、研究、開発業務の受託およびコンサルティング●産業財産権などの知的財産権に関する調査、管理●当社開発商品などの製造・販売●研究設備などの賃貸 など

組織図





発電所設備運用・ 保全技術

低廉で良質な電力を安全かつ安定的に供給するために、発電設備の保守点検や運用管理の高度化・効率化ならびに安定運転に必要な保全技術に関する研究(数値流体解析、低品位炭利用、劣化診断など)を行っています。



電力輸送設備運用・ 保守技術

電力輸送設備は、風雨、雷、地震、鳥獣害など、様々な外部環境の影響を直接受けるため、これらの影響度を的確に評価し、各設備の状態や異常兆候を把握するセンシング技術、電線・鉄塔部材・基礎・蓄電池の劣化予測技術など、設備の運用・保守技術の研究に取り組んでいます。



電力系統解析・ 制御技術

安定で良質な電力供給を行えるよう、電力系統の解析・制御技術や分散型電源の連系技術についての研究を行っています。



鉄筋破断非破壊 検査技術

鉄筋コンクリート構造物に影響を与えない、磁場を利用した「漏洩磁束法」により、手軽に鋼材の健全性(鉄筋破断の有無)を非破壊で診断できる技術を開発しました。



防食技術

橋梁や鉄道、産業プラントなど各種インフラ設備の老朽化対策が大きな課題となっています。当社では社会インフラ設備の耐久性の維持に貢献できる革新的な塗料の研究開発を行っています。



情報通信・ モニタリング技術

電力の安定供給に必要な電力設備の運転情報などを的確かつ効率的に伝送する電力保安用通信設備の建設・保守、ならびに運用全般の効率化・コスト低減を目指し、最新の情報通信・モニタリング技術を用いた各種の研究開発を行っています。

電力・エネルギー

電気事業関連技術の高度化・効率化を通じて、環境にも配慮した低廉で良質な電力・エネルギーの安定供給を支援しています。



社会インフラ 設備の保全

道路や橋、各種プラントなど、社会インフラの老朽化が進む中、設備の長寿命化や補修コストの削減につながる技術をご提供し、戦略的メンテナンスに貢献しています。





農業の振興

地域の主要産業である農業の振興に向けて、農作業の省力化や青果物の高付加価値化、食の安全性向上や食品ロス対策にもつながる技術を開発し、ご提案しています。



防災・減災

自然災害の脅威や産業活動に伴う事故・環境災害から暮らしの安全を守る技術の研究・開発に取り組んでいます。





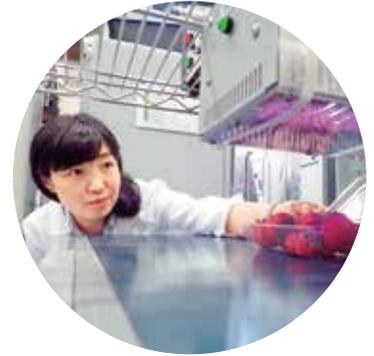
光利用栽培技術

植物自身の抵抗力を引き出す植物病害抵抗性誘導用光源を研究開発しました。現在、各地の生産者の皆様にお使いいただいています。また、大学や研究機関などにおいても、この技術の多様な効果に関心をもっていただいています。



バイオテクノロジー技術

当社は植物の組織培養に関する研究に長年取り組み、栄養繁殖性の野菜やラン類の大量増殖技術や育種技術を培ってきました。これらの組織培養技術を活用し、自然界で数が減少している希少な山野草類や自社開発のイチゴ品種も増殖・種苗生産しています。



鮮度保持技術

昨今、食べられるのに捨てられてしまうフードロスが大きな問題となっています。当社では、食料資源を長持ちさせる近赤外光を用いた世界初の青果物鮮度保持技術を研究開発しました。



地質・土木技術

自然災害リスクへの対応として、地質地盤評価技術、地震発生時の被害推定に関する研究、また、今後一斉に補修や更新の時期を迎えると言われていた高経年化コンクリート構造物の健全性評価や老朽化対策に向けた、劣化予測手法や劣化評価・診断技術の研究に取り組んでいます。



ガス計測技術

光計測技術の研究開発に取り組み、遠隔で複数のガス種と濃度が特定できる光学式マルチガスセンサやマルチガスライダー、ならびに目に見えない水素火炎を可視化できる水素火炎可視化装置を開発いたしました。



環境化学技術

地球温暖化を緩和するためのCO₂の除去技術や、太陽電池や燃料電池などの新エネルギー技術、新しい化合物とそれを用いた環境浄化技術など、環境にやさしい技術の開発を進めています。

粒子計測式水質分析装置

火力発電所などのプラント水中に含まれる鉄濃度をリアルタイムで連続監視できる装置です。この装置は、火力発電所の起動時および定常運転時のプラント水質監視に有効です。

また、ボイラ過熱器管などにおけるスケール剥離の連続監視への活用も期待されています。

特長

- 鉄濃度測定 of 迅速化・省力化
- 原理・構造がシンプル
- 軽量コンパクトで持ち運びが可能



M.EYEチェッカー®

👑 2017年度 土木学会賞 (技術開発賞)

構造物を傷付けずコンクリート表面から非破壊で内部の鋼材の「健全性」(破断の有無)を検査する装置です。

特長

- ASR (アルカリ骨材反応) が見られるRC構造物のほか、PC構造物(ポステン・プレテン桁)に使用可能
- 測定したデータを無線で転送、その場でノートパソコンの画面に波形を表示
- 磁気計測ユニットは、約1.5kgと軽量でコードレスのため取扱いが簡単



CPチェッカーM® 3D

配電柱・電信柱・信号柱などの鉄筋コンクリート柱の内部鉄筋の破断を、柱表面から非破壊で検知します。小型軽量、携帯・無線型なので、取扱いが容易です。

特長

- センサユニット…操作速度に制約なく、コン柱の鉄筋の破断を自動診断機能により、容易に検知できる
- レコーダユニット…測定した磁束波形をその場で確認でき、記録・保存、パソコンでも結果を表示可能
- 磁石ユニット…両面が使用でき、適度な磁力で着磁がスムーズ



CPチェッカーM® 3Dのセット内容

αシリーズ

👑 2019年度 色材協会賞 (技術賞)

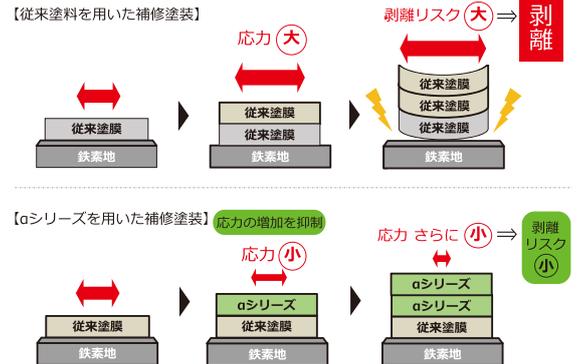
剥離抑制型弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料

優れた耐久性を有し、旧塗膜の剥離抑制や補修コストの大幅な抑制など、従来の塗料の概念を払拭する革新的なインフラ設備補修用塗料です。

特長

- 剥離リスクが高まった旧塗膜の剥離を抑制
- 補修ライフサイクルコストの低減
- 安価な施工
(従来の補修工法と同様に3種ケレンなどの素地調整で施工可能)
- 高い耐久性
(従来の変性エポキシ樹脂塗料と同等以上の防食耐久性)

従来仕様 と αシリーズ の剥離リスクの違い



タワーバリアー

タワーバリアーは、素地密着性と環境遮断性の両立を実現した、超長期の耐久性が期待できる防食塗装システムです。

特長

- 補修時期における送電鉄塔鋼材表面(亜鉛-鉄の合金層)に対する優れた密着性
- 2回塗りで乾燥膜厚400 μm (下塗50 μm +上塗350 μm)の厚膜塗装、さらにガラスフレークの迷路効果による優れた環境遮断性
- 低飛散効果(塗装時における飛散・汚れの低減)



CaL-AL Tech.® (カルアルテック)

新しい化合物とそれを用いた環境浄化技術

CaL-AL Tech.®(カルアルテック)は、炭酸カルシウム(CaCO_3)などのカルシウム化合物と水酸化アルミニウム($\text{Al}(\text{OH})_3$)を混合した後、焼成して得られる多孔質の粉体とそれを用いた環境浄化技術です。土壌や排水に含まれる重金属類、特に対策が困難とされている六価クロムや六価セレンを不溶化する高い性能を有しています。

用途

- 汚染土壌や燃焼灰中の六価クロムやヒ素などの有害物質の溶出を抑制する不溶化材
- 排水に含まれる有害物質の低減材
- セメント固化時の六価クロムの溶出抑制材
- 石炭灰(フライアッシュ)の有効利用資材
- 軟弱土の固化材
- 雑草対策など、様々な用途に活用できます



マルチガスライダー

レーザー照射によって生じる対象ガス固有の散乱光を検知して、水素をはじめ危険性の高いガスを含む多様なガスを遠隔から安全に計測することが可能です。

特長

- 漏洩箇所のガス濃度と距離がわかるため、3次元的空间濃度分布が計測可能
- 可燃性ガス・毒性ガスなど、幅広いガス種に対応可能
- 小型・軽量の可搬式



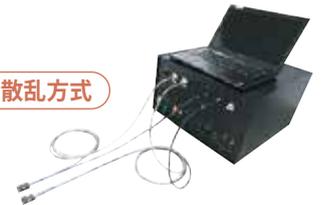
光学式マルチガスセンサ(ラマン散乱方式・紫外吸収方式)

レーザー光や紫外光でガス種と濃度を瞬時に特定できるほか、光ファイバー伝送により過酷な環境での計測にも対応できます。また、センサ部は電気系を含まないエレクトリックフリー構造となっています。

特長

- 様々なガスの濃度 (ppmオーダー) をリアルタイムにモニタリング
- 光ファイバーを利用し、本体と離れた場所のガス濃度計測が可能
- 腐食性ガスや無酸素雰囲気下、また200°Cまでの高温下など、過酷な環境での計測にも対応
- 計測結果はPCのモニターにリアルタイム表示
- 小型・軽量の可搬式

ラマン散乱方式



紫外吸収方式



水素火炎可視化装置(定置型・携帯型)

目に見えない水素火炎を検知し、火炎の領域や形状を可視化することができます。また、火災現場における高温雰囲気でも、高温領域と水素火炎領域を識別することができるので、迅速、安全、合理的な消火作業、鎮火の確認が可能です。

特長

- 定置型**
- 水素火炎を検知すると、火災画像の記録や警報発報が可能
 - 平常時は侵入監視装置としても使用が可能

定置型



特長

- 携帯型**
- 小型軽量で携帯でき、任意の場所の観測が可能
 - 液晶画面に背景画像と水素火炎を赤色で合成表示

携帯型



スイングマインダー®

地震発生後の建物被害を適切に評価するためには、建物に加わった加速度や変形量、傾斜角など、評価に必要な高精度なデータを収集することが重要であり、近い将来、発生が懸念される南海トラフ地震などに備え、地震発生後の迅速かつ精度の高い安全性評価に役立てるため、無線式振動モニタリングシステム「スイングマインダー® (Swing Minder)」を開発・実用化しました。

特長

- 地震による建物の揺れを遠隔地でも容易に確認
- 無線式なので既存の建物にも容易かつ安価に設置が可能
- 構造ヘルスマニタリングに必要な計測精度を確保



加速度センサユニット



データ収集ユニット

ウォーターマインダー®

👑 2019年度 土木学会四国支部賞「技術開発賞」

様々な設置環境に対応可能な無線式水位モニタリングシステムです。当社では、導入・維持管理コストが低く、設置が容易であり、様々な設置環境に対応可能な無線式水位モニタリングシステム「ウォーターマインダー® (Water Minder)」を開発・実用化しました。

特長

- 無線で楽々設置…通信ケーブル不要で既存施設に後付け可能
- 優れた拡張性…センサの組合せ次第で何でもモニタリング
- 簡単モニター…専用ソフト不要、警報メールの受信可能



センサユニット(子機)



データ収集ユニット(親機)

ハッピーマインダー®

ハウス内の栽培環境をモニタリングしながら適正に管理することで《生育や収量の安定、向上》《病害抑制》《品質の向上》《省エネ対策》などに役立てることができます。

特長

- 無線通信方式のため設置が簡単
- データ収集ユニットにセンサユニット最大16台接続可能
- 専用ソフト不要の簡単モニター、警報メールの受信も可能



センサユニット

iRフレッシュ®

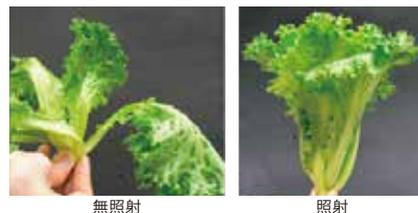
👑 2017年度 日本生物環境工学会四国支部 開発賞

iRフレッシュ®は、近赤外光(テレビのリモコンや防犯カメラの照明に使われている安全な光)をごく短時間照射するだけで、青果物のカビや腐り、萎びを抑制し、おいしさを保つ世界初の技術です。

特長

- ごく短時間の光照射1回で、青果物の鮮度保持を実現
- 萎びや腐りを抑えるとともに、フレッシュな味わいを保つことで、高付加価値化やブランド化に貢献
- 流通中の事故やクレームの低減
- 遠方への輸送による販路拡大に寄与

リーフレタスの萎れ抑制(10℃・3日保管)



無照射

照射

柑橘選果場への導入

設置状況

温州みかんの腐敗抑制(20℃・20日保管)



無照射

照射

みどりきくぞう®シリーズ

👑 2009年度 日本生物環境工学会四国支部 奨励賞・2018年度 日本生物環境工学会四国支部 開発賞

緑色光を照射することで植物の抵抗力が向上することを明らかにし、多様な効果を得られる緑色LED光源「みどりきくぞう®」シリーズを開発しました。栽培時のLED照射で、環境に優しい減農薬栽培と農作物の生産性向上や高品質化が期待できます。

特長

みどりきくぞう®

- 緑色光を農作物に照射することで、病虫害の抑制、生育促進および品質向上を図ることが可能
- 農業ではないので、登録の必要や残留の心配がない
- 果菜類、葉菜類、花き類などの施設栽培品目を中心に幅広く利用可能

特長

みどりきくぞう®GR

- 「みどりきくぞう®」の緑色光に赤色光を組み合わせることで電照効果を強化
- 電照作用(開花調節、休眠抑制など)や生育促進、切り花のボリュームアップを図ることが可能
- 電照栽培において、従来の白熱電球、蛍光灯を取り換えるだけで65~85%の省エネ効果が期待できる



植物組織培養受託と国産ライチ栽培コンサル

当社は植物の組織培養研究に取り組み、絶滅が危惧される希少植物の大量増殖技術、野菜や花きのウイルスフリー化や品種改良技術を保有しています。

また、農業の高度化に役立つ農業電化研究の各種成果を応用し、希少性の高い国産ライチの減農薬・スマート栽培技術を開発しています。

これらの技術を活用し、植物組織培養試験や国産ライチ栽培コンサルを受託しています。

特長

- 無菌培養ができるクリーンルーム施設や栽培用環境制御温室を保有
- 植物組織培養試験受託が可能
- バイオ苗の大量増殖や種苗生産が可能
- スマート栽培ライチブランド「美の紅果®」 3つの美-①美味しい ②美容 ③美しい環境
- ライチ栽培コンサル受託が可能



- 1959 (S34) ○ 四国電力(株) 技術研究所設置
- 1964 (S39) ○ 小型電気温水器を電力会社で初めて開発、全国的な電気温水器普及の端緒をつくる
- 1979 (S54) ○ 技術研究所を総合技術開発研究所に改称(1986、総合開発研究所に改称)
- 1987 (S62) ● 総合開発研究所を独立し、(株)四国総合研究所設立**
- 1988 (S63) ○ 配電線活線作業ロボットを開発・透水平板を開発
- 1990 (H2) ○ 西条太陽光発電試験設備(1,000kW級)を用いた電気事業大の共同研究を受託
- 1993 (H5) ○ 多機能型電気自動車「PIVOT」を開発
- 1995 (H7) ○ 高知県窪川町に植物工場を建設し、実証試験を開始
- 1998 (H10) ○ ・次世代双方向遠隔監視・制御システム「オープンブラネット」を開発
・イチゴの新品種「スマイルルビー(四季成り性品種)」、「スマイルハート(耐病性品種)」を開発
- 2001 (H13) ○ 水電解型水素供給ステーション(NEDO 事業)の実運用試験を受託(～2005年度)
- 2002 (H14) ○ 防食スプレーを開発・柚子粉末の製造開始
- 2003 (H15) ○ ・生物式水質監視システム「メダカ de モニター」を開発
・「家庭用自然冷媒給湯機」がグッドデザイン賞を受賞
- 2004 (H16) ○ コンクリート柱用鉄筋破断非破壊診断装置「CPチェッカー[®]」を開発
- 2005 (H17) ○ 水素火炎・ガス可視化装置を開発
- 2006 (H18) ○ 送電鉄塔補修用長寿命塗料「タワーバリアー」を開発
- 2007 (H19) ○ DNA解析を利用した魚卵識別技術を開発
- 2008 (H20) ○ ・山間地送電鉄塔補修用長寿命塗料「ガルバタワーLL」を開発
・一般コンクリート構造物用鉄筋破断非破壊診断装置「M.EYEチェッカー[®]」を開発
- 2009 (H21) ○ ・植物病害抵抗性誘導用緑色光源「みどりきくぞう[®]」を開発
・火力発電所電気集塵装置へのCVケーブル適用を実用化
- 2010 (H22) ○ ・風力発電出力予測システムを開発
・電気自動車用普通充電スタンドを開発、運用試験開始(～2013年度)
・オンデマンド・モニタリングシステム「openATOMS[®]」を開発
- 2012 (H24) ○ ・経済産業省の補助事業「小型光学式マルチガスセンサの製品化研究」を受託
・福岡水素エネルギー戦略会議の支援事業「レーザーによる小型遠隔水素検知システムの研究開発」を受託
- 2013 (H25) ○ 栽培環境モニタリングシステム「ハッピーマインダー[®]」を開発
- 2014 (H26) ○ ・近赤外光を用いた青果物鮮度保持技術「iRフレッシュ[®]」を開発
・太陽光発電出力実績推定・予測システムを開発
- 2016 (H28) ○ 送電鉄塔塗装システム「タワーテクト」を開発
- 2017 (H29) ○ ・「共鳴ラマン効果による大気中微量有害物質遠隔計測技術の開発」が
防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」に採択
・連続式マイクロ波加熱装置を開発
- 2018 (H30) ○ ・新型塗料「剥離抑制型弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料」(αシリーズ)を開発
・無線式振動モニタリングシステム「スイングマインダー[®]」を開発
- 2019 (R1) ○ 電照栽培用LED光源「みどりきくぞう[®]GR」を開発
- 2020 (R2) ○ ・環境浄化技術「CaL-AL Tech.[®](カルアルテック)」を開発
・無線式CO₂モニタリングシステム「カンキマインダー[®]」を開発
・ライチスマート栽培技術の開発、初の果実生産
- 2022 (R4) ○ ・ライチの促成栽培による収穫期間の長期化技術を開発
・香川県内企業へのライチ栽培コンサルを開始
- 2023 (R5) ○ ・「超短パルスレーザーを用いたCBRN検知ライダシステムの開発」が防衛装備庁「安全保障技術研究推進制度」に採択
・「CPチェッカーM[®]3D」の販売を開始
・低コスト新型植物栽培用緑色LED光源「みどりきくぞう[®]」の販売を開始



1980



1990



2000



2010



2020



2020





「あっ」と驚かせるような
技術や装置を
一緒に開発しましょう

杉本 幸代 / SUGIMOTO SACHIYO
博士(理学)

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. 光を物質に照射した時に起きる現象を観測し、何がどこにどのくらいあるのかなどを明らかにする「光計測」に関する研究を行っています。たとえばガスを計測したい場合、便利なのはガスセンサですが、温度や圧力といった条件によってはセンサを置けなかったり、センサそのものがガスの流れに影響を及ぼすケースもあるんです。そうした時は、離れた場所から非接触で計測できる光計測の技術の出番。私たちの技術がお客さまの役に立っていると実感できるのが、一番のやりがいですね。広い視野と興味関心を持って自分の専門知識を深めていくことはもちろん、自分のノウハウを後輩たちと共有し、チームの成長を支える存在になれるよう頑張っています。

Q. オフの楽しみは？

A. 登山やスポーツクライミングが趣味なんですが、ちょっとお休み中。ガーデニングやケーキ作りに凝ってみたり、クラシックギターをたしなんだり、最近はパンダの彫刻にもチャレンジしています。少し前にカヤックを購入したので、今年の夏はシーカヤックで水上散歩を楽しみたいです。



材料強度の
スペシャリストとして
活躍していきたい

中村 拓弥 / NAKAMURA TAKUYA
博士(工学)

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. 火力発電所では、安定した電力供給を守るため、高温部材が損傷して蒸気が漏れ出すといった不具合を未然に防ぐことが重要です。そのため、高温部材の寿命を詳しく評価し、適切なタイミングで補修や更新をする必要があります。私の仕事は、高温部材である蒸気配管などを対象に、「寿命評価解析」「高温引張試験」「金属組織調査」を行ってどのくらい余寿命があるかを評価すること、評価法そのものを新しく開発すること。言わば電力の安定供給を支える縁の下の力持ちですね。

Q. 仕事のやりがいとは？

A. 何か不具合があって火力発電所が運転を停止すると、その影響は計り知れません。不具合を防ぐに当たっては、点検時のデータなどをもとに私たちが評価した部材の余寿命が補修や更新計画に反映されますから、非常に責任が伴う仕事をしている実感があります。既存の評価法に感じていた課題を解決したり、精度を向上したりする新たな評価法の開発は、学術誌に成果が掲載されることもあり、研究者として業績を築く手応えも感じられます。私たちの仕事は、発電所の「ホームドクター」のようなもの。評価技術の向上とともに新しい部材の知見も深めて、スペシャリストとして道を究めたいと思っています。



難しい・辛いことも
ワクワクすることがあれば
乗り越えられる

内田 嗣人 / UCHIDA HIDETO

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. 四国には、日本で最も長い活断層「中央構造線活断層系」をはじめ、多くの断層が分布しています。その活動性を、地質・地形調査や地震・測地データから評価するのが私の仕事です。発電所の耐震安全性評価のため、発電所周辺の岩盤調査なども行います。

大学・大学院では地質学を専攻し、地質構造や断層岩に関する研究に従事していました。この経験を地元・四国に貢献する仕事で生かしたいと思っていた私にとって、自然災害に関する研究活動ができる当社の仕事はとても魅力的。四国エリアの地震評価・活断層評価の知見向上につながる仕事を目指しています。

Q. 仕事のやりがいと今後の目標

A. 断層の活動性に関する研究成果をどんどん公表し、今後は大学院の博士課程への進学も視野に入れていきます。地震などの自然現象や、長い時間をかけて岩石の中に形成された断層が対象ですから、はっきりした答えが出ることは少ないんですが、顕微鏡やパソコンを駆使してそこから何が読み取れるかを試行錯誤するのがとても楽しいですね。新たな発見は容易ではありません。トライ・アンド・エラーを繰り返し、さまざまなアプローチを試みて、「少なくともこの分野では自分が第一人者だ!」と胸を張れるよう頑張っています。



防食塗料製品の研究開発は
社会的意義の大きい、
やりがいのある非常に面白い分野

坂口 聡彦 / SAKAGUCHI TOSHIHIKO

Q. 現在の仕事内容を教えてください

A. インフラ維持に貢献する防食塗料製品の研究開発を行っています。塗料や塗装、またその評価技術の分野では、各企業においてノウハウを抱え込んでいることなどが影響し、詳細なメカニズムが明らかになっていないことが多くあり、通説や教科書的な記載が必ずしも正しいとは言えないことがあります。そのため、通説などを見直すことで大きく改善できる余地が残っており、非常に面白い分野となっています。また、今後30年における我が国のインフラ維持に掛かる費用は数百兆円と言われており、これを低減することは社会的意義の大きい、やりがいのある分野でもあります。当面の目標としては、鋼橋や鉄塔の塗り替え間隔を長期化することで、塗装費用の低減および現場の負担減へ貢献することを目指し、インフラ維持に貢献できる技術の研究開発を行っていきたく考えています。

Q. オフの楽しみは?

A. 休日は、友人のお店でダーツをしてリフレッシュすることが多いです。ダーツはメンタルスポーツと言われており、過度なプレッシャーがかかったり、雑念が入ると、なかなか思うように矢が飛んでいきません。仕事においてはあれやこれやと考えることが多いですが、無心になって取り組む趣味としてダーツと向き合うことでバランスが取れているように思います。



四国の北東部に位置する香川県は、全国で最も面積の小さい県です。県庁所在地の高松市は陸・海・空の交通手段を備え、利便性の良い四国の玄関口となっています。

四国総合研究所はその高松市に社屋を構え、窓からは台形型のシルエットが特徴的な景勝地・屋島が望めます。源平合戦の舞台ともなった屋島の地。山頂は瀬戸内海の多島美と高松市街が一望できる絶景スポットとして知られています。

“讃岐うどん”が全国的にも有名で、うどんの店舗数が全国1位という数字でもわかるように、県民に愛されているソウルフードとなっています。そのことから香川県は、『うどん県』の名で親しまれるようになりました。

現在では、瀬戸内海の島々を舞台に3年に一度開催される現代アートの祭典『瀬戸内国際芸術祭』が、国内外から注目を集めています。

香川県は、江戸時代の奇才、平賀源内の生まれ故郷でもあります。平賀源内は、エレキテルの復元をはじめさまざまな発明を成し遂げた人物であり、浄瑠璃作家、本草学者、西洋画を世に広めるなど、幅広いジャンルで活躍をしました。分野問わず、新しいものを発見し、実現していくとする文化が、今も息づいています。

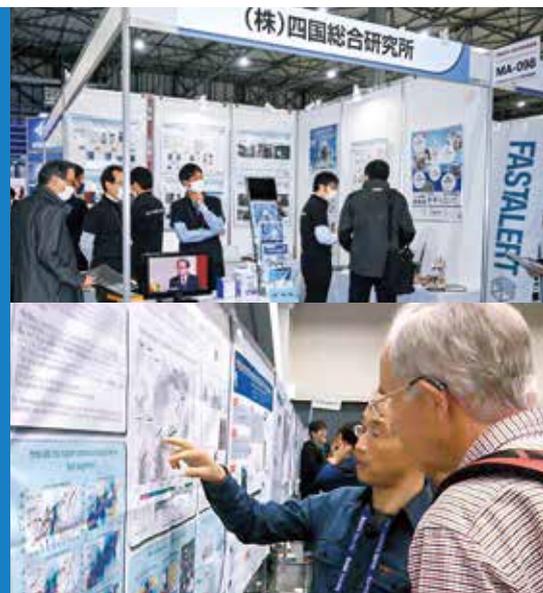
一方、香川県は1世帯当たりの貯蓄が常に上位。堅実な県民性も見えてきます。

豊かな自然と文化に恵まれたこの香川の地で、さまざまな分野に堅実に向き合い、未来を支える技術の開発に挑んでいきます。

EXHIBITION OVERSEAS BUSINESS TRIP

展示会・海外出張

国内および海外での展示会・見本市などにも積極的に出展し、電力・エネルギー、社会インフラのレジリエンス(強靱性)に繋がる最新の技術や開発製品について、積極的なPRを行っています。



CONTACT

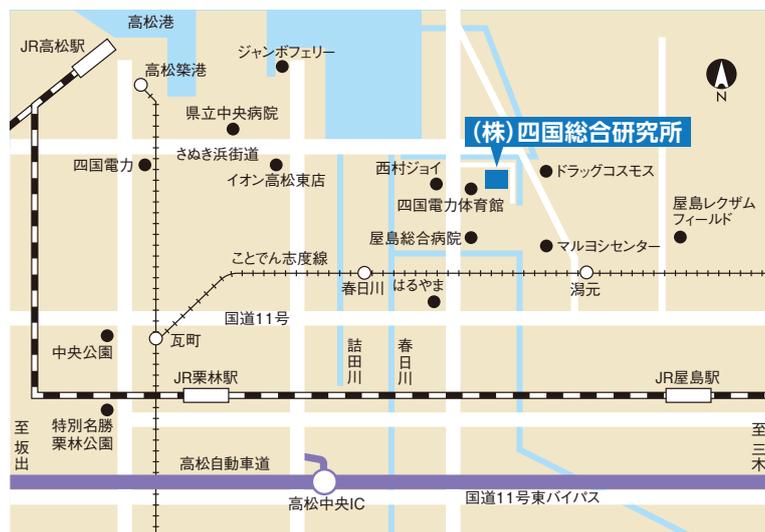
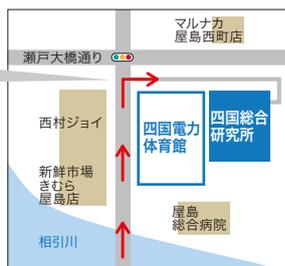
問い合わせ先

- JR四国「高松駅」下車、タクシーで約15分。
- 高松空港よりタクシーで約40分。
- 高松自動車道高松西ICより車で約30分。
- 高松自動車道高松中央ICより車で約20分。
- ことடன்「渦元駅」より徒歩約15分。

地図詳細



四国電力体育館の入り口から入り、約300m直進ください。



住所 〒761-0192 香川県高松市屋島西町2109番地8

電話番号 (087) 843-8111 <代表>

FAX番号 (087) 887-0005

HP <https://www.sskn.co.jp/>

